

海外で心に残った記憶と背景

(イラン編)

2023年11月記 松村 眞

はじめに

外国を訪問すると、予期しない体験をして驚いたり感心したりすることがある。見聞きして面白く思うこともあれば違和感を覚えることもある。日本を訪れた外国人と接しても同様に、その時の記憶は時間が経っても容易に忘れない。意図的な結果ではないから他人に伝える機会は少ないが、印象が強いのので参考になることも多い。本稿ではイランで経験し見聞きした驚きや違和感について、事例の状況と考えられる背景を紹介する。

産業関連設備市場調査（2000年1月）

60代の前半には数件の海外案件を依頼された。その一つは国際協力銀行がプラント協会に依頼したイランの産業関連設備市場調査である。対象が基幹産業の設備全般なので、発電設備や製鉄設備のメーカーを中心に約10名のプロジェクトチームが編成された。しかし、環境関連設備に詳しいメンバーがいなかったため、プラント協会から私に参加の要請が届いた。プラント協会の担当者は日本輸出入銀行（現：国際協力銀行）の出身で、1990年代後半の東南アジアの環境調査で私が同行して面識があった。その時に私が執筆した報告書も読んでいたので適任と考えたのであろう。私はすでに日揮を退社していたので、通常は個人と契約しない協会のプロジェクトに参加する資格がない。しかし今回は特別に個人でも構わないということなので参加することにした。

なお後でわかったのだが日揮からも海外事業本部から1名が参加していた。今後のエネルギープラントの市場として有望と考えたのであろう。編成されたプロジェクトチームは、国内で数回にわたってイランの経済や社会環境の説明を受け、予備知識を蓄えて現地訪問調査の準備をした。訪問先としては政府機関12か所、国営企業4か所、民間企業3か所、日本政府と業界の出先機関4か所、金融機関1か所とした。2週間でこれだけ訪問して面談し、関連資料を収集するのだからタイトなスケジュールになった。

現地では夕食後に全員が集まり、入手した情報と資料を相互に説明して認識の共有化を図った。帰国すると容易に顔を合わす機会がないのと、報告書の作成までに時間的な余裕がなかったからである。滞在したのはテヘランのホテルだが、自由に外出できたのは休日の2日間だけだったからテヘランの街はほとんど見ていない。以下に調査の概要と短期間に見たイランの状況を紹介します。

現地を訪問したのは2001年の1月で、直行便がないからストックホルム経由でテヘランに入った。このときのフライトはイラン航空で、昼食にキャビアが出されて嬉しくなった。スチュアードスの服装は、ゆったりした裾の長いスカートと袖まで隠せる民族衣装だった。イスラムの服装だから髪にはスカーフを巻いていたが顔は出していた。



遠くに雪山が見えるテヘラン

テヘランの空気は澄んでいて、ホテルからは遠くに雪を抱いた山々が見えていた。イランは昔のペルシャだから、もっと暖かいと思っていたのに気温は10℃以下だった。ホテルのロビーは広かったが、いつも人が多くて空いているソファを見つけるのが困難だった。ロビーの客は、飲料のサービスもないのに長い時間おしゃべりしていた。宿泊客ではなく、近所の人たちのコミュニケーションの場所になっているようだった。このホテルから、毎日、チャーターしたマイクロバスで訪問先にでかけた。

イランの環境問題は大気汚染が硫黄酸化物・窒素酸化物・煤塵・揮発性有機物である。硫黄酸化物の発生源は、硫黄分の多い重油を燃料にしている発電所と産業用のボイラーである。ほとんど排煙脱硫設備を設置していないが、対策としては脱硫設備を設置するよりも燃料を天然ガスに切り替える方が経済的と考え、国もその方針を採用しようとしていた。天然ガス資源に恵まれた国だからこそ可能な対策で羨ましいと思った。窒素酸化物は大きな問題になっていなかったが、日本と同様に燃烧炉の改善で発生を抑制しようとしていた。煤塵と揮発性炭化水素の主な発生源は、環境への影響を考慮していない老朽化した自動車である。調査した結果、イランで走行している自動車の平均車齢が約17年とわかった。欧米の平均車齢は10年未満だから、排ガスの許容基準が大きく違うのである。街で目にした自動車の多くが欧米ではほとんど見られない旧型車で、黒い煤塵をまき散らしながら走っていた。主な対策はバス路線の整備など公共輸送機関の整備と、未対策車の一掃であろう。なお、産油国なのでガソリン代が1リットル2円程度と非常に安価だった。

水質については地域によって上水源の汚染が進み、飲料水の基準に適合しなくなっていた。原因は生活排水と産業排水がほとんど未処理のまま放流されているからである。テヘランには北部のエルブルス山脈から雪解け水と伏流水が流入している。水量は非常に

豊富で、水質がよく飲料用にも問題ないから水道に使われている。この水は道路わきの側溝にもとうとうと流れていた。一方、下水道はどうなっているのか事前に情報を得られなかった。そこで政府機関を訪問するたびに下水道を管轄する部門がどこか質問した。しかし、どの部門も「自分のところではない。どこか知らない。」という返事で途方にくれてしまった。私の役割は必要な環境保全設備の需要調査だったから、下水処理関連施設を除外するわけにはいかない。そこで身近にいる現地の通訳に、自宅の下水はどこかの処理場に送られているのか尋ねたところ、予想もしなかった説明が帰ってきて非常に驚いた。

彼の家は戸建て住宅だったが、建設するとき小さな井戸のような深さが 3 メートル弱の穴を掘り、下水はトイレの排水も含めて全部流入させているというのである。その後、オフィスでも聞いてみたが、穴の大きさと深さが違うだけで処理方式は全く同じだった。工場も同じだという。ここでは他の国ではあり得ない地下浸透方式が大規模に採用されていたのだ。その後、調べてみたら地下浸透が可能なのは地質が深くまで砂層だからとわかった。このため下水道も下水処理場も必要なかったのである。では地下に浸透した下水と産業排水はどこに行くのだろうか。

首都テヘランの人口は約 700 万人だから、下水は 1 日 200 万トンぐらい発生するのである。地下に浸透したこの水量は地下水になって標高の低い地域に流れ、その地域の水源になる。テヘランは標高が約 1400 メートルだから、こうした砂ろ過を経て上水と下水が繰り返され最後は海にたどりつくのである。砂ろ過は固形物の除去には効果的だから、下流では透明な清水に戻るであろう。しかし砂ろ過だけでは洗剤や溶剤は除去できないし、工場から排出される水溶性の化学物質も除去できない。このため、いずれ地域には下水道と下水処理場が、化学物質を扱う工場には産業排水処理設備が必要になるであろう。

テヘランから帰国後、私は事前調査と現地調査にもとづいて全環境保全関連設備の需要を表形式に整理した。対象設備は発電関連が天然ガスの精製設備、パイプライン、発電所と工場の天然ガスボイラー、製油所の燃料脱硫設備など 14 種類になった。工場の環境保全設備は、排煙脱硫装置や集塵装置、産業排水処理設備など 12 種類になった。都市インフラ設備は分散処理用の浄化槽と下水処理施設、廃棄物処理施設、環境モニタリング設備など 20 種類になった。これら全 46 種類の設備について、設備単価、需要規模、日本企業の参入可能性、需要の顕在化時期をランキングして報告書を作成した。1 国の環境保全設備需要を網羅的に整理したのは初めてである。入手情報の限界から予測精度は高いとはいえないが、46 種類もの設備別に定量的な予測をした報告は初めてだから、日本のプラント業界にとっては有益な資料になったであろう。

テヘラン滞在はスケジュールが非常にタイトだったが、ホテルと訪問先の往復、および

土日の 2 日間で見聞きした範囲で街の様子を紹介しよう。イランと西欧諸国との決定的な違いは、イスラム聖職者が大統領の上位にある宗教国家ということにある。法令も聖職者の代表に最終決定権があり、人々の生活にはイスラム教の戒律が浸透している。目立った特徴は女性の服装で、よく知られているように顔と手以外を隠し、街では目立たないようにしなければならない。でも隠すにも程度があり、熱心な女性は黒い布で目と手足の先以外はすべて隠していたが、一般的にはスカーフのような布で頭髪を隠すだけが多い。その隠し方にも程度があり、若い女性はスカーフをなるべく浅くかぶろうとしていた。そのスカーフも本来は地味な色の無地なのだろうが、中には無地ではなく明るい色調の洒落たデザインもあった。お洒落をしたい若い女性の気持ちを抑えるのは、戒律だけでは無理があると思った。女性の服装を監視するのは宗教警察で、程度の軽い違反者には注意をし、ときどきは見せしめのために警察に拘引して 1 晩留置すると通訳の人が言っていた。

街で若いカップルを見る機会はめったになかった、というより皆無に等しかった。結婚は原則として親が決めることになっており、自由な男女交際は認められないのである。見つければ、これも宗教警察の取り締まり対象だった。でも目こぼしもあるようで、テヘラン郊外の小高い山には宗教警察が入らない暗黙の合意があり、行くときは男女別だが帰ってきたときはカップルになっている例もあるとのことだった。街を走るバスは 2 両編成で前の車両が男性用、後の車両は女性用と決まっていた。夫婦でもバスに乗るときは別々の車両に乗るのである。見ていて気がついたのは、男性用が混んでいて立っている人が多いのに、女性用は空いていて空席が多かった。全般的に街中は男性が多く、商店やレストランのサービススタッフもほとんどが男性だった。女性はあまり外出させないのであろう。そういえば街にプールがあるのだが、肌を見せない女性用の水着があるのか現地の人に聞いてみた。彼の返事を聞いて私はなるほどと納得した。男女の利用時間を、日本の小規模な温泉旅館みたいに時間帯で分けていたのである。

テヘランではホテルで朝食と夕食を食べていたが、お世辞にも美味しいとは言えなかった。理由はイスラムの戒律による制約で、パンがピザ生地かナンのように固いのである。アルコール飲料が禁止されているから、アルコール発酵にも使えるイースト菌が厳しく制限されており、パンをふっくらと焼けないのである。次は肉で、もちろん豚肉は食べられないが牛肉も美味しくなかった。イスラム方式の屠殺と解体では血を全部抜いてしまうからである。見た目は日本と同じように見えるのだが口に入れるとパサパサだった。われわれは毎日、ホテルのレストランでメニューを見ながら注文を変えてみたが、どれも美味しくなかった。そこでルームサービスのハンバーガーを頼んでみたら、なぜか一番美味しかったので、以降の食事ではルームサービスだけ利用した。私は宗教に反対ではないが、服装や食事に厳しい制限を課す理由を理解できないし必要性も納得できない。

テヘランの滞在中に休日が 2 日あったので、テヘランから約 340 キロメートル南方にあるエスファハーンに行った。古くからの政治・文化・交通の拠点で、有名なイマーム・モスクがあり世界遺産に登録されている。日帰りの予定だったから朝のフライトで行ったが、この飛行機がポンコツで一部の椅子は背もたれが戻らず、機体は揺れるとギシギシ音がしていた。エスファハーンは広々としたきれいな街で、中央に幅の広い川が流れており、美しいハージュ橋が印象に残った。有名なのはイマーム広場で、南北が 512 メートル、東西が 159 メートルの長方形である。中央が浅い人口池になっていて、その周囲の幅の広い歩道を人々が散策していた。われわれが歩いていたら女学生のグループが英語で話しかけてきた。学校で英語を習っているらしく、通じるか試したかったらしい。この女学生グループは、スカーフをかなり後ろにずらして髪を半分以上も出していた。テヘランだったら宗教警察に注意されるであろう。



ハージュ橋



イマーム広場とイマーム・モスク



水パイプによる喫煙

広場の南側中央には巨大なイスラム建築のイマーム・モスクがあり、ドームも壁面も精密なアラベスク模様のタイルで覆われていた。色は非常に美しい青が基調だが、場所によって茶系統、赤系統、緑系統が採用されていた。広場の周辺は 2 層のアーケードになっていて、下の層だけが店舗になっており多くのクラフトショップが並んでいた。絨毯屋が数軒あって、外国人と見るとすぐに数十万円もするカーペットを売ろうとする。私は記念にテーブルに置く縦横 30 センチほどの敷物を買った。イマーム広場の近くに水パイプを吸わ

せる喫茶店(?)があったので、面白半分に入ってみた。中には多様な形とデザインの水パイプがあり、気に入ったパイプを注文するとタバコの葉をセットしてくれた。水タバコは香りをつけたタバコの葉に炭を載せて熱し、出た煙をガラス瓶の水を通過させて吸引するのである。水パイプの長さは60センチから80センチが多いが、1メートル以上の大きくて贅沢にできたパイプも置いてあった。1回の喫煙時間が1時間程度と長く、パイプも長くて重いので専用の喫茶店で楽しむようになっている。私も吸ってみたが、短時間だったこともあって味は記憶に残っていない。

テヘランに戻った後だが、1晩だけ全員が日揮の現地事務所に招待された。この時は久しぶりにビールもお酒も飲めたとし、料理は肉も魚も美味しくて生き返った気がした。食材をどこで手に入れるのか聞かなかったが、あるところにはあるものだと感心した。イランの調査は旅費などの実費を負担してもらえただけで報酬はなかった。給与が支給されている企業人の参加が前提だからで、私のような個人の参加は例外なのであろう。無報酬は気に入らなかったが、そういう協会の仕組みもわからないではなかった。私にはボランティア活動になったが初めて訪問した国なので面白かった。とくに西欧諸国との風俗や習慣の違いが顕著で興味深かった。でも食事を考えると、私にはあまり行きたい国ではない。

イランの社会的な背景

- ① 最大の特徴は聖職者が国の最高決定機関という政治体制であろう。選挙で選ばれない聖職者が大統領より権限が強いことから、民主主義国家とはいえないであろう。
- ② 服装から飲食まで宗教が支配しているので、国外からの訪問者は規律に注意する必要がある。国民はそれなりに順応しているが、時には許される範囲で抵抗しながらしたたかに生きている。
- ③ 女性は保護の対象とされている一方、社会的な地位が低く職業上の差別が少なくない。

海外で心に残った記憶と背景 (イラン編) 終わり